

DXハイスクール推進事業

1. 現状・課題

- ☑人口減少が継続し、人手不足・地域社会の維持などの社会課題への対応にはデジタル技術を活用することが不可欠
- ☑一方で、デジタル人材が不足していることから、初等中等教育段階からの人材育成に向けた抜本的強化が必要
- ☑情報活用能力について学習する機会と併せて、先端のICT機器を活用した体験的な学びの機会が必要

2. 事業内容

- ☑情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備をおこなう

R6採択校（12校）

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 安心院高校 | 4. 竹田高校 | 7. 大分雄城台高校 | 10. 大分西高校 |
| 2. 情報科学高校 | 5. 大分上野丘高校 | 8. 三重総合高校 | 11. 津久見高校 |
| 3. 国東高校 | 6. 別府鶴見丘高校 | 9. 中津南高校 | 12. 爽風館高校 |

取組方針 ICT機器を活用した教育環境を整備 → デジタル等成長分野を支える人材育成の充実を図る

3. 取組内容

- ☑DXハイスクールの取組推進（R7継続校、R7新規採択校） ※現在、申請中（4月上旬～中旬 決定・発表予定）
デジタルを活用した授業や課外活動を行うための機器を整備し、情報・数学・理科等の教育内容の充実、探究的な学びの機会を確保

導入

高度なデジタル技術を活用できる機器整備

- ・ハイスペックPC
- ・3DCGデザインソフト
- ・3Dプリンター
- ・プログラミング機器
- ・各種センサー類
等

活用

☑大学や企業等、外部との連携による研修

- ・データサイエンスに基づく課題発見力の育成
- ・デジタル機器の操作の習得と様々な学習への活用方法の研究
- ・先進校視察

☑理数教科・情報Ⅱ、探究学習での活用

- ・デジタルを活用したモノづくり体験を取り入れ、問題解決を実践的に学ぶ
- ・データから意味のある情報を引き出し、仮説を立て、多角的な視点から検証を重ね、粘り強く探究に取り組む

☑外部コンテスト、課外活動への参加

- ・取組成果の発表会への参加
- ・プログラミング教材を利用した大会への参加

目指す生徒像

- ・デジタル技術を活用して新たな価値を創造し、未来を切り拓く力を備えた人材

取組による効果

- ・デジタル人材の素養を持つ生徒の増加
- ・「総探」×「情報Ⅱ等の学び」を推進できる教員の増加

4. 県内普及の取組

- ☑教員向け研修の充実
情報Ⅱ等の授業（データサイエンス、プログラミング等）を想定した講義・演習の機会を提供することを通じて、教員の指導力向上を図る
- ☑生徒対象講座の充実
探究的な学びを支える情報ツールである生成AIを活用する機会を想定した研修を提供することを通じて、生徒の実践力向上を図る
- ☑DXハイスクール研究協議会
採択校間で取組事例等の情報を共有し、各高校の取組レベルの向上を図る